



# みなみの風

【発行日】

令和7年7月11日

【発行者】 学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成  
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

この暑さの中、門の前で出迎える日があるのですが、そのようなときに、顔を真っ赤にして汗をかきながらも、一生懸命登校してくる子どもたちを見ていると、弱音を吐いている場合じゃないと痛感させられます。

過日、全校児童を対象に実施した生活アンケートを全て見させてもらいました。多くの「〇〇が楽しい」という表現があり嬉しい気持ちになった反面、悩みがある子の存在も確認できました。多くは友人関係であったり、学習のことであったり…。引き続き「明日も行きたくなる学校」を子どもたちとともにつくっていきたいと思います。



## プール清掃実施

～6年生・先生方 ありがとう！～

この夏の暑さを考えると、先が思いやられますが、子どもたちは元気に過ごしている子が多く、本当にすごいと思います。

6月18日に、6年生と先生方によるプール清掃が行われました。当日は、思いのほか気温が上昇し、予定していた清掃時間を大幅に短縮した中で、効率的に行うことができました。短い時間とはいえ、6年生は最上級生としての矜持をもち、水とたわむれながらもしっかりときれいにしていました。

水泳学習も始まり、子どもたちはきれいなプールでわくわくして学んでいます。



## 突然の来室にて

～ごちそうさまでした～



右と真ん中の写真は、6年生が調理実習で作ったスクランブルエッグを、左の写真は、2年生が個々に育てているミニトマトを持ってきてくれた時に撮ったものです。6年生は、自信満々に作ったのでしょ…とても美味しいスクランブルエッグでした。何事に対しても一生懸命に向き合う本校の6年生は、学校の誇りであり、自慢です！

ミニトマトは、他の子どもも少しずつ収穫しており、まるで宝石かの如くきれいに艶めくものが次々と実っています。それを傷つけないように丁寧に収穫する様子を見ていると、それだけで心が洗われます。

## 子育てアラカルト⑭ ～「集中」より「夢中」～

過日、何気なくテレビを視聴していた時に、CMだったと記憶しているのですが、『「集中」より「夢中』』という言葉が聞こえてきました。その時は、あまりピンと来ていなかったのですが、後日改めて言葉のもつ意味を考えてみると、子どもたちにぴったりあう表現だなと思うようになりました。

私が思うに、「集中」というのは意識的なもので、「夢中」というのは無意識的なものと捉えてみました。学校生活の中で子どもたちは、他の人の話が聞えなかつたり時間を忘れて没頭したりするなどの姿を見ることがあります。ややもすると、これは集団生活の中で適応が難しいのでは、と思われるかもしれませんが、恐らくこういう時は「夢中」になっているときであり、無意識なので自らの行動を修正するとかしないとかの次元ではないのかもしれない。

広辞苑では、「集中」…ひとところに集めること。また、集まること

「夢中」…物事に熱中して我を忘れること

とありました。様々なことがある日常で、集中力が必要な場面は多々ありますが、その力自体は、とても素晴らしい資質・能力です。しかしながら、我を忘れるほど熱中する子どもたちの姿ほど、心を打たれるものはないのではないのでしょうか？このことが、本校の今年の合言葉「生き生き わくわく」につながると考えます。ご家庭において、子どもたちが夢中になっている姿はどんな時に見られますか？

## 今年度の学級目標を紹介します②

～定めたからには何を心に残すのか…～

私は、18年間学級担任をし、以前は2年ごとにクラス替えがあったため、15の学級と出会いがありました。9年間が高学年(5年2回、6年7回)の担任で、様々な巡りがあり、1年生の担任はついに叶いませんでした。

さて、自分自身も毎年学級目標を定めていましたが、学級を構成する子どもたちの様子から最初の2週間で強みと課題を明確にし、ほぼ自分で考え、その思いを子どもたちに伝えるというスタイルでした。

今でも鮮明に覚えている目標があります。11年目の6年担任時の「時には花に、時には根に」、18年目の4年担任時の「強い心が勝つ」の2つです。言葉のとおり、「表舞台だけでなく裏方も大切に」「簡単で楽なほうよりも難しく苦しいほうを選ぶ」ということについて、当時の子どもたちと考えてきたことを今でも思い出します。

1組「3つの心」～助け合い あきらめない チャレンジする～

2組「団結」

～最高の仲間たちと協力してレベルアップしていこう～

3組「整理整頓」

①時間 ②気持ち ③身のまわり ④整理整頓

4年

4組「輝かせよう Five Stars！」

～えがおの星 努力の星

思いやりの星 けじめの星 個性の星～

1組「ゆう ～勇・友・You～」

5年

2組「＃七転八起」

3組「きりかえ」

～きづかい リアクション かんがえる えがお～

1組「ちゃれんじ！」

みなみ

2組「あいうえお」

～あいさつ うんどう えがお おもいやり～

3組「できる！」

4組「できた」

5組「ごきげんにすごそう！！」



### 考えることを手放さない

～6月の児童代表委員会にて～

昨年度は、出張が重なり、ほぼ代表委員会の様子を見ることができなかつたのですが、今年度は2回連続で参観することができました。6月20日に第2回代表委員会が行われました。しかし、企画委員会を中心に準備してきたことはわかるのですが、前回同様、わざわざ集まらなくても済む内容であると感じ、さらにいえば全員が揃って始まるまでかなりの時間を要したことが引掛かりました。早めに来た児童は、10分以上も待っていたのが実態です。やっと始まったかと思えば、5分程度で終わりそうな感じだったので、さすがにこの運営方法に苦言を呈しました。

コロナを経験したことで、改めて集合する必要性は何なのかを考えなければならないと話しました。「昨年、こうやっていたから…」ということもあるかもしれませんが、強い思いをもって本気で話し合わなければ、子どもたちの最高決定機関である「児童代表委員会」は、意味を成しません。

子どもたちが「自分たちで考えることでこの学校を創っていくんだ」という気持ちがほしいと思います。それには、教職員の意識改革ももちろん必要なので、徐々に改善できるよう努めていきます。ちなみに、過日行われた第3回は、すでに課題を解決し、意見が飛び交う代表委員会になっていたことに感動しました。

### 協働的な学びの充実②

～フレキシブルな学び～

教科指導を行う担任等は、指導力向上を目指し、定期的な校内研究会を開催し、お互いに研鑽しています。子どもたちに付けさせる資質・能力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力等の育成であることがいわれて久しいです。

それは、覚えたことをペーパーテストによる記憶の再生にとどまらず、他者と関わり合いながら、よりよ



いものを創りあげていくことが必要となります。現在は、それを「協働的な学び」といいます。

左の写真は、4年生がグループで、意見交換している様

子です。また右の写真は、6年生が一斉学習の中で、お互いの考えを伝え合う様子です。どちらの学級も仲間と関わりながら、問いに向かい合う、すてきな姿です。

